



発行所 国鉄労働組合盛岡地方本部
発行 齋藤 庄司
編集者 中堤 聡司
TEL 019-622-5021
メールアドレス nrumori@poem.ocn.ne.jp

2010.6.10 第1422号

拡大キャッチコピー

「新しい仲間づくりを皆の力で」
「一緒に解消しませんか、あなたの疑問。加入ってます」

東日本本部ブロック別組織対策交流集会

1人ひとりが一歩前に踏み出そう

盛岡・千葉・東京から76人が参加

組織拡大の波が大きくなっている。5月17日の水戸地本における国労復帰で、2006年の一括和解以降78人、そして20ヶ月連続で組織拡大を勝ち取ってきている。
こうした中で東日本本部は、組織拡大運動の交流を目的にブロック別の交流会を取り組むこととした。その第一弾として、5月23・24日の2日間、千葉県九十九里町・国民宿舎「サライズ九十九里」にて盛岡地本・千葉地本・八王子地区本部・大井工場支部の交流会を開く。盛岡地本からは復帰者である能登谷節夫さんをはじめ12人が参加し、全体では76人が結集し交流を深めた。反転攻勢に向け、1人ひとりが1歩前に踏み出そう！

粘り強く継続した取り組みの大切さ

1日目は、国労東日本本部弁護団の海渡雄一弁護士の「最近の労働法制の動きとポイント」について講演を聞き、その後各地本(地区本部)支部)での拡大報告を受け、分散会に入りました。拡大報告では、盛岡地本からは青森支部の能登谷節夫さんが国労復帰という自身の経験をもとに「国労復帰の思いはあったがなかなか踏み切れなかった。けれども、今日一緒に参加してくれた小原分會書記長が背中を押してくれた。自分の経験を広めるために、いろいろな会議へ積極的に参加したいと考えている」と報告しました。また、分散会は、9班に分かれ、職場状況や組織拡大状況を報告し合いました。
2日目は、前日に引き続き朝から分散会を行い、組織拡大に向けてどのように取り組んでいくか討論しました。分散会終了後、全体交流で分散会の報告、各地本の情勢報告がありました。盛岡地本からは菊池組織部長が「会社側の小さな変化も見受けられる。拡大には分会活動の活性化が重要と考える。引き続き、地本は支部へ、支部は分会へ足を運ぶ取り組みを強めていきたい」と報告しました。

ブロック別組織対策

国鉄労働組合東日本本部



盛岡地本から参加し報告する小原さん(左)と能登谷さん(右)(青森駅連合分会)

短い時間でしたが、各地本の組織拡大状況や分会活動等を聞き、ひとりが責任を持つのではなく国労全体で責任を持ち、組織拡大に向け粘り強く継続した取り組みが大切だと改めて感じた。白間でした。盛岡電気分会 佐藤祐司

阿部一男(7月・花巻市議選挙)
斎藤憲雄(10月・青森市議選挙)
= 議席確保に組合員の協力を =

当面の主な日程

- 6月15日(盛岡) JR不採用問題盛岡地区報告集会
6月16日 JR不採用問題一関地区報告集会
6月23日(盛岡) JR不採用問題北上地区報告集会
6月18日 JR不採用問題宮古地区報告集会
6月23日(盛岡) 第10回地本執行委員会・第9回闘争委員会
6月23日(盛岡) 岩手県交通労協幹事会
6月24日(東京) 第95回交連共済通常総代会
7月9日(東京) 交連共済東日本事業本部運営委員会

改めて護憲の思いを強く

佐高信氏(評論家)が講演

5月29日、平石町のホテル大観において、平和環境岩手県労働組合センター主催の第2回県労組センター単産単組代表者・地区労組代表者合同会議及び学習交流会が3部構成で開催されました。
1部の代表者会議では、第1回代表者会議以降の経過報告として、第20回臨時総会で役員交代や岩手県議選会派問題・県議補選について報告されました。また、協議として、平環

組織内候補の阿部一男氏が立候補予定の花巻市議会議員選挙が7月18日告示、25日投票、同じく組織内候補の斎藤憲雄氏が立候補を予定する青森市議会議員選挙が10月24日告示、31日投票実施される。阿部氏は9度目、斎藤氏は4度目の議席の確保を目指しての立候補。すでに組合員には7月に予想される参議院選挙とあわせ取り組みを要請している。関係地区協など連携し、自治体議員選挙で組織内候補の当選に向けた取り組みを積極的に展開しよう。(主な経歴 主な現役職)



花巻市議会議員選挙 阿部一男(現)63歳 民主党公認(現在8期目)



青森市議会議員選挙 斎藤 憲雄(現)58歳 民主党公認(現在3期目)

1946年生まれ、明治大学経済学部卒、花巻地方労働組合連合会事務局長、花巻市国保運営協議会会長、市議会総務常務委員、花巻南地域開発協議会理事、民主党岩手県連合副代表。

1951年生まれ、東奥義塾高卒、国鉄入社、国労青森支部・地本役員、1998年青森市議会議員初当選、市議会都市建設常任委員会委員、同新幹線特別委員会委員、民主党青森総支部副代表。

岩手県内4地区で不採用問題報告集会

馬淵帯広闘争団团长来県
JR不採用問題報告集会と各単組へのお礼行動が岩手県側で、馬淵帯広闘争団团长が来県し、盛岡・北上・一関・宮古地区などで6月15日、18日の間に展開される。今行動は、解決への扉を大きく開いたことを受け、今後もしっかりと闘争団を支え最終解決を実現するまでの闘いと参議院議員選挙での奮闘を期して取り組むこととなっている。組合員の多くの参加を。

最後の「評論家」佐高信氏による「誰が憲法をつぶそうとしているか」という演題で、1時間10分ほどの講演会でした。この講演会で、「鳩山首相は、連立・地元よりアメリカとの合意を優先した」「自衛隊幹部などの考え、発言問題」「言論の自由が無い危険さ」や故城山三郎氏の「戦争で得たものは憲法だけだ」など広範にわたる内容でしたが、厚木基地所属の米軍戦闘機墜落事故で、犠牲になった家族の話も聞き、改めて護憲の思いを強くしました。

ていこう
JR東日本は5月11日東北新幹線八戸～新青森駅(線路延長81.8キロ)の開業日を今年12月4日に決定したと発表。同時に来年3月導入するE5系新型高速新幹線車両の列車愛称を「はやぶさ」に、同車両に1両導入するスパーグリーンの名称を「グランクラス」に決めた。決定を受けて青森県知事や青森市長のカウントダウン開始の様子をテレビが伝えていたが、ハイテンションで喜ぶさまに私は違和感を持った。新幹線新青森駅開業に伴う影の部分である並行在来線はJRから経営分離され、第三セクター鉄道会社「青い森鉄道」目時八戸間が青森駅(線路延長121.9キロ)まで延伸される。移管される「青い森鉄道」は当初から赤字が予想されており、極めて厳しい経営環境に置かれている。新青森駅開業は運賃・新駅建設・新幹線との交通アクセス・利便性確保・少子高齢化・沿線住民の減少・モータリゼーションなど多くの問題をかかえているにも拘らず進展していない。地方ローカル線の維持継続には地方自治体だけでは困難で国の継続的な支援が必要である。今後開業が予定される新幹線をかかえる地方自治体の聞き取り調査を国土交通省が実施しているが国の具体的な支援策は明らかにされていない。JRから経営分離された鉄道会社の経営が成り立つような恒久的支援措置の確立が必要だ。また、八戸～青森間の経営分離に伴い、大湊線・八戸線のJR経営のあり方や配転・出向などの雇用問題もある。「青い森鉄道」移管にむけ不安や動揺を払拭し安全第一を基本に進める闘いを強化していこう(聡)

